

主張

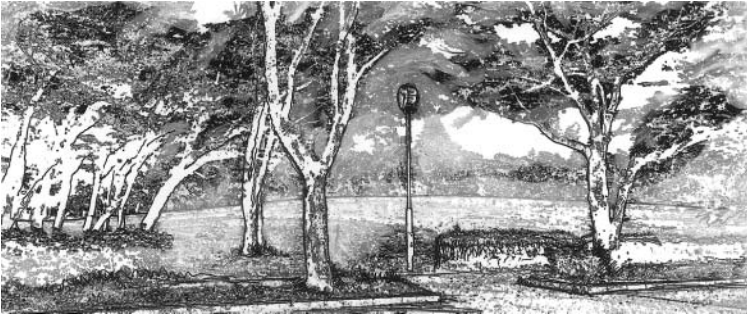
コロナ状況下での「職場体験活動」を考える

松葉 覚

昨年度以来、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各学校では教育課程の見直しが行われ、新しい生活様式での教育活動が展開されていることと思います。また、収束の見通しが立たない状況下で、適切な学校経営がなされていると推察いたします。

今年度、新学習指導要領が全面实施されました。昨年度は移行措置最終年度でしたので、スムーズに移行するために準備を進めていたと思います。しかし、新型コロナウイルス感染症への対応が付加され、従来行われてきた教育活動は大きな影響を受けました。その一つに、キャリア教育の一環として行われている「職場体験活動」があります。

現在に至るまで「職場体験活動」は、様々な経緯を経て学校ごとに特色のある取組が行われてきました。しかし、近年は「職場体験活動」の必要性は理解されつつも、教育課程の精選が図られているために活動そのものについては縮小や中止の意見もありました。そのような時に、新型コロナウイルス感染症の問題が重なり、学校外での「職場体験活動」の実施は大変厳しい状況になりました。学校としては、自校の計画に則った職場体験活動を活用して系統的なキャリア教育を実施したかったと思われまます。しかし、「人との接触を避ける」という観点から考えれば、活動の中止あるいは内容の変更という判断は正しかったと思います。このようなことから、コロナ状況下における「職場体験活動」の在り方が



課題として挙げられます。キャリア教育は、生徒に将来の生活や社会、職業などとの関連を意識させ、キャリア発達を促す教育です。したがって、職場体験活動・社会人講話・ボランティア活動・自然体験活動などの体験的な学習が不可欠です。しかし、コロナ状況下では従来型の体験的な学習ができず、各学校は活動の在り方を模索しています。そこで、現状を認識した上で、前向きな発想が必要だと思えます。

現在、多くの企業においてリモートワークが実施されています。誰もが最初は戸惑いや違和感があったと思いますが、現在は働き方の一つとして認知されており、リモートワークを行っている人々の姿を見ている生徒たちも増えています。また、学校では、オンラインによる授業も行われていますので、「オンラインによる社会人講話」は容易に実施できると思います。また、インターネット環境が整っていれば、リモートワークの働き方を体験する活動も「職場体験活動」の一つとして実施できると思います。まずは、躊躇することなく新しい取組にチャレンジしてはどうでしょうか。

ただし、コロナ状況を理由に、各学校が工夫して取り組んできた従来型の「職場体験活動」を簡単に止めてほしくないと考えます。各学校には様々な事情があると思いますが、現況だけで判断せずに将来を見据えて結論を出してほしいです。なぜなら、各学校が取り組んできた特色のある「職場体験活動」によって、生徒が社会人・職業人として自立して生きるために必要な能力が培われているからです。また、「職場体験活動」は、単に仕事を体験するだけでなく、地域や社会の人々から多くのことを学ぶと同時に地域理解につながる活動だからです。一昨年度以来、「コロナ」という言葉に翻弄されていますが、近い将来必ず収束します。その時、「職場体験活動」をはじめ必要とされている体験的な学習が消去されていないよう、今の判断を慎重に行いたいと思えます。

(全日中副会長・岩手県盛岡市立下橋中学校校長)